

20170827 「エサウとヤコブ」

目 標： 神の祝福を大切にすることはどういうことなのかを考え始める

聖書箇所：創世記25：19－34 時 間：10分

暗誦聖句：「彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」（ヨハネによる福音書1章12節）

道 具： ホワイトボード、ペン

対象者： 中3×1 中1×1 小6×1 小5×3 小3×1 小2×1 小1×2 幼稚園児×2

留意点：

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	アブラハムとサラの間に、イサクが生まれたことを覚えていますか。 イサクには、リベカという奥さんが与えられました。二人の間には、双子が生まれました。		前々回の復習。質問形式で内容を尋ねても良い。 系図を板書する 前回の復習。質問形式で内容を尋ねても良い。 系図に書き加えていく。
課題探究	6分	双子の名前を知っていますか。 どちらがお兄さんでしたか では、どちらがイエス様の先祖になったか知っていますか。 どうして長男ではなく、次男のヤコブが長男のようになったのでしょうか。 このお話をするたびに、先生は思い出すことがあります。長男が1歳半の時のことです。私の誕生日に奮発してショートケーキをみんなで食べたことがありました。 エサウさんは、ヤコブさんと比べて、いい人だと思うのです。 しかし違うのは、長子の権の大切さを意識していないことで、これがまずかったことなのです。アブラハムからの長子の権とは、救い主イエス様をこの地上にもたらす権利です。エサウはですから、先の話から考えると、2歳児にも満たない愚かなことをしてしまったことになるのです。	<ul style="list-style-type: none"> ・エサウ ・ヤコブ <ul style="list-style-type: none"> ・エサウ <ul style="list-style-type: none"> ・ヤコブ 	系図に書き加えていく。 彼らは以前一度この物語を聞いている。覚えている子供は多いはずである。 既習事項なので、子どもたちに説明させてみると良い。出来なければ出来ないで、本日の話のあらすじを教師が述べるようにする。 すなわち、一杯の煮物のために長子の権を譲ってしまったエサウの一連の行動である。 長男が私の食べ残しのケーキをほしがったので、「では、お父さんの老後の面倒を見るか？」と聞いたら、言葉の解らない息子がウンと頷き、ケーキ（の残骸）にありついた代わりに信じられない負債を背負うことに決まったという話（実話）である。 ヤコブよりエサウの方が気っぷも良く、よくしてくれそうなことは、聖書の後の記述からも推察できることである。 世の中が考える事と、聖書のそれとの違いをここで浮き彫りにしていく。 アブラハム以来の長子の権の特別さをここで指摘したい。
まとめ	2分	皆さんも、エサウのように愚かであってははいけません。イエス様の福音の大切さ、素晴らしさを知って、そして大切にす、そういう人になってほしいと思います。 暗誦聖句		大切なのは、エサウの愚かさよりも、恵みを受け継ぐには愚かであってははいけない事の強調である。 190号のテーマ「神の恵みに生かされる」からの反映。恵みに生かされるには、賢さが不可欠なことに言及し、意識を高める事で、目標を達成したことになるだろう。

